

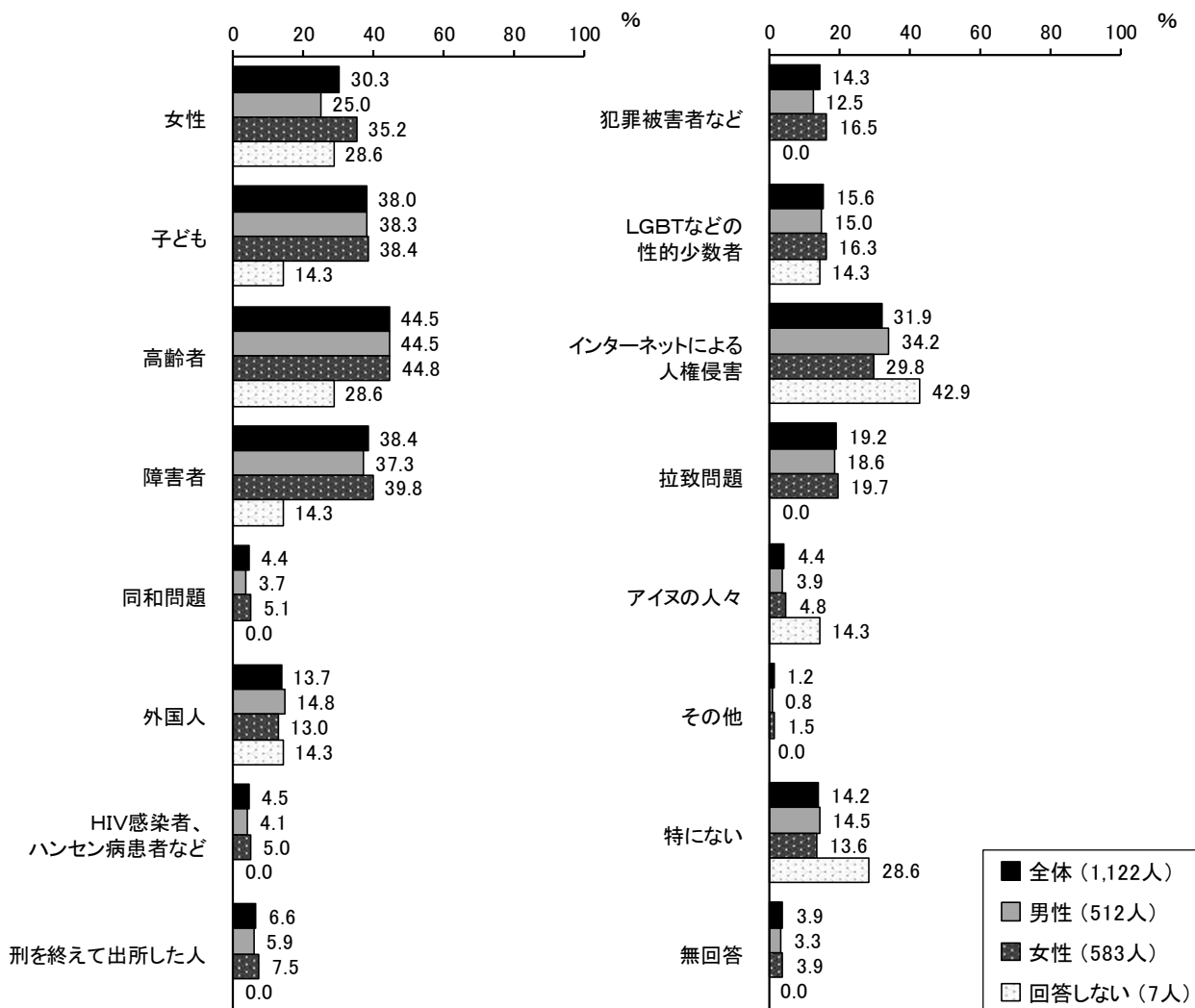
## 8 人権意識について

### 8-1 人権の意識について

◆「高齢者」44.5%、「障害者」38.4%、「子ども」38.0%◆

問 21. 現在、社会にはいろいろな人権問題がありますが、あなたが関心のあるものはどれですか。あてはまるものをすべて選び、番号を○で囲んでください。

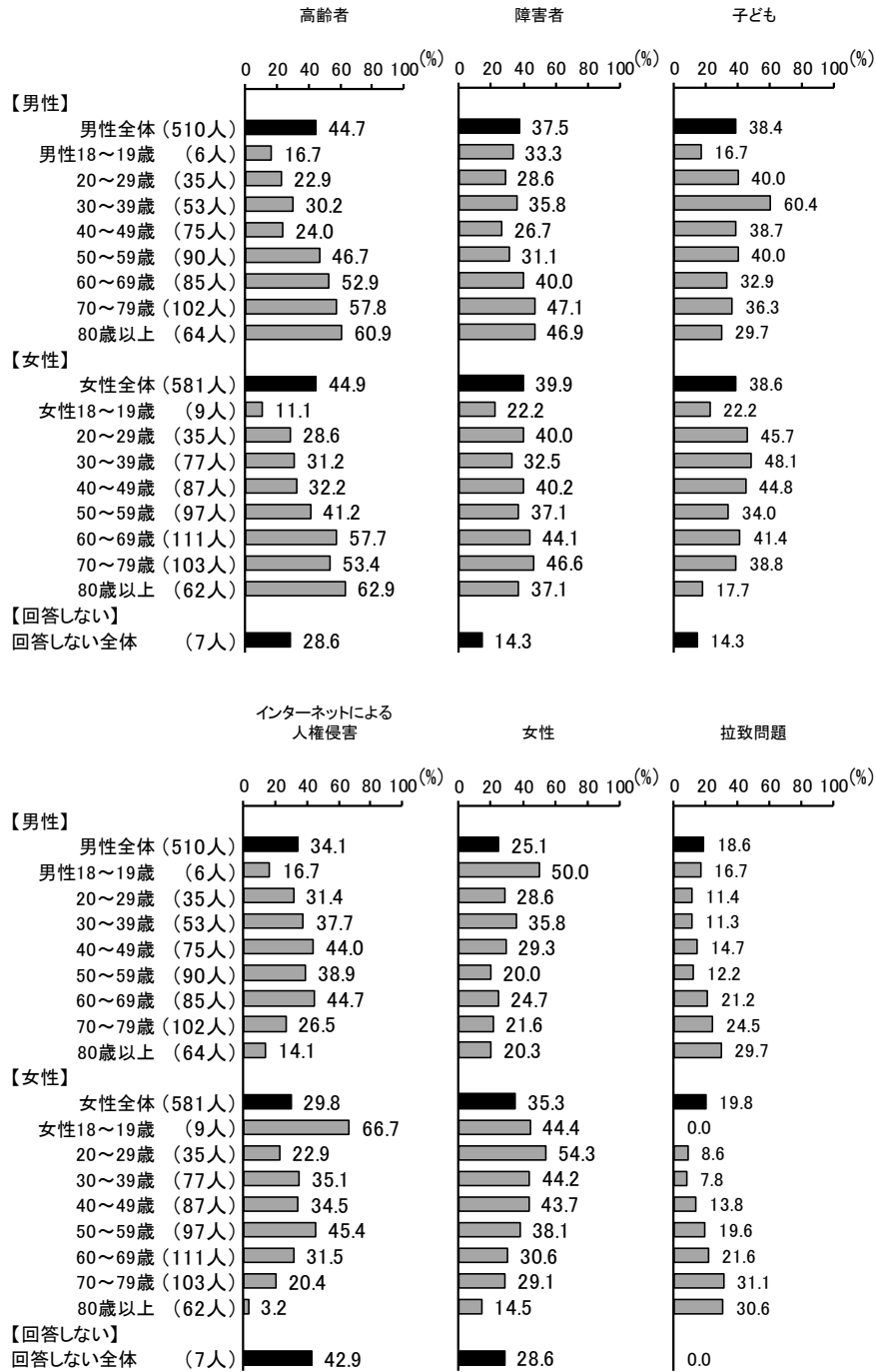
人権の意識について（全体・性）



全体では「高齢者」の割合が44.5%と最も高く、次いで「障害者」の割合が38.4%、「子ども」の割合が38.0%となっています。

性別でみると「女性（の人権問題）」は女性（35.2%）が男性（25.0%）を10.2ポイント上回っています。

## 人権の意識について（上位6項目 性・年代別）



性・年代別でみると「高齢者」は男性・女性とも年齢が高くなるにつれ、関心が高まっています。

「障害者」は男性・女性ともに70~79歳で最も高くなっています。

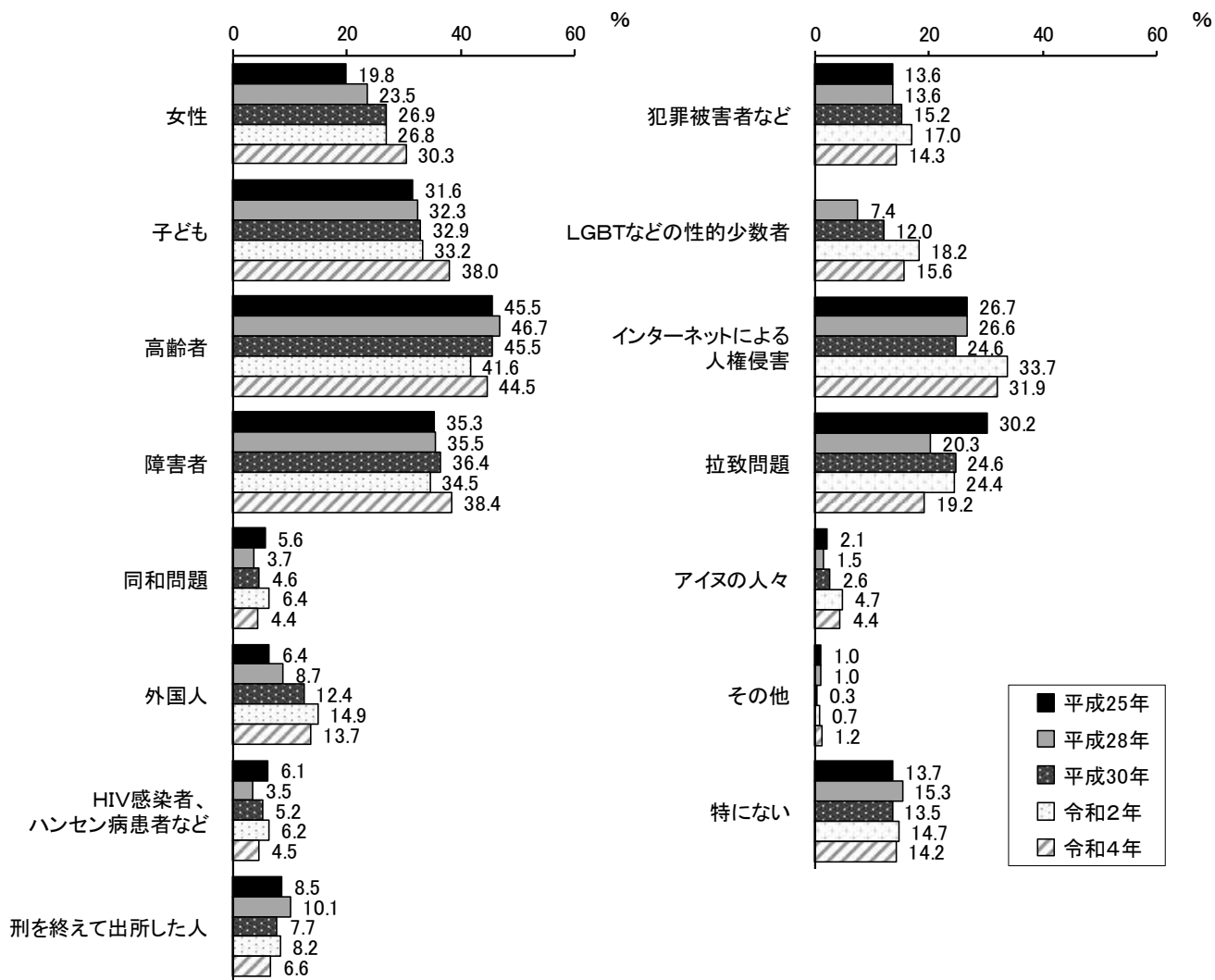
「子ども」は男性の30~39歳で60.4%と最も高くなっています。

「インターネットによる人権侵害」は女性の18~19歳で66.7%と最も高くなっています。

「女性（の人権問題）」は男性の18~19歳で50.0%、女性の20~29歳で54.3%とそれぞれ最も高くなっています。

「拉致問題」は男性の80歳以上で29.7%、女性の70~79歳で31.1%とそれぞれ最も高くなっています。

人権の意識について（経年比較）



※ 「LGBT などの性的少数者」は、平成 28 年度からの選択肢です。

※ 「LGBT などの性的少数者」は、平成 28 年度までは「性的指向・性同一障害などの性的少数者」でした。

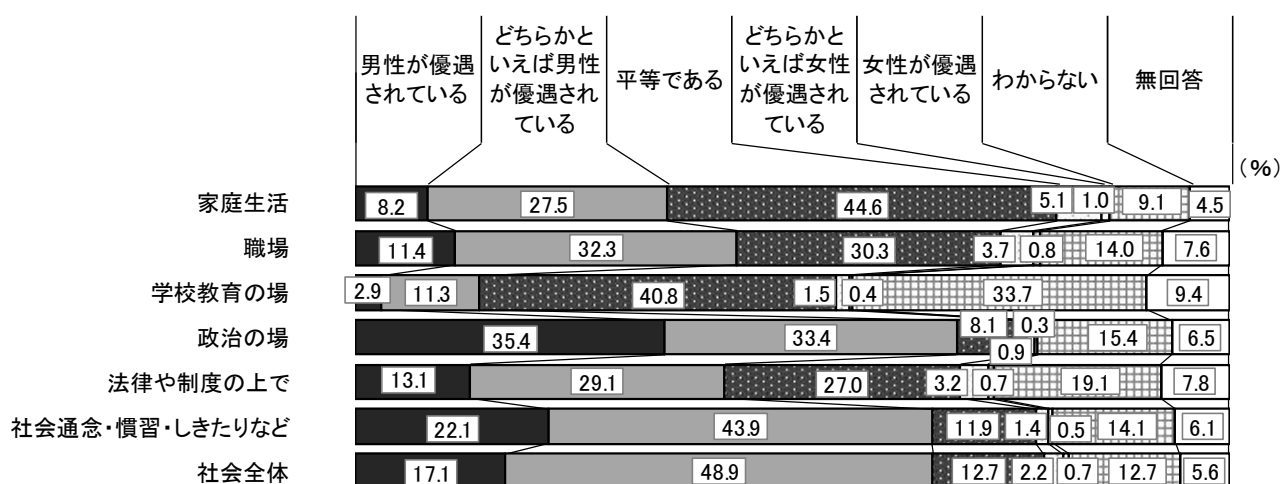
令和 2 年度調査と比較すると「子ども」は 4.8 ポイント、「障害者」は 3.9 ポイント、「女性」は 3.5 ポイント増加しています。一方、「拉致問題」は 5.2 ポイント、「犯罪被害者など」は 2.7 ポイント減少しています。

## 8-2 男女の地位の平等感

### ◆〈家庭生活〉の平等感が最も高い◆

問 22. あなたのまわりでは、次の場面で男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれ1つ選び、番号を○で囲んでください。

男女の地位の平等感



### 〈全体の概観と性・年代別〉

「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた“男性優遇と感じている”は〈政治の場〉で 68.8%と最も高くなっています。次いで〈社会通念・慣習・しきたりなど〉〈社会全体〉が 66.0%と高くなっています。

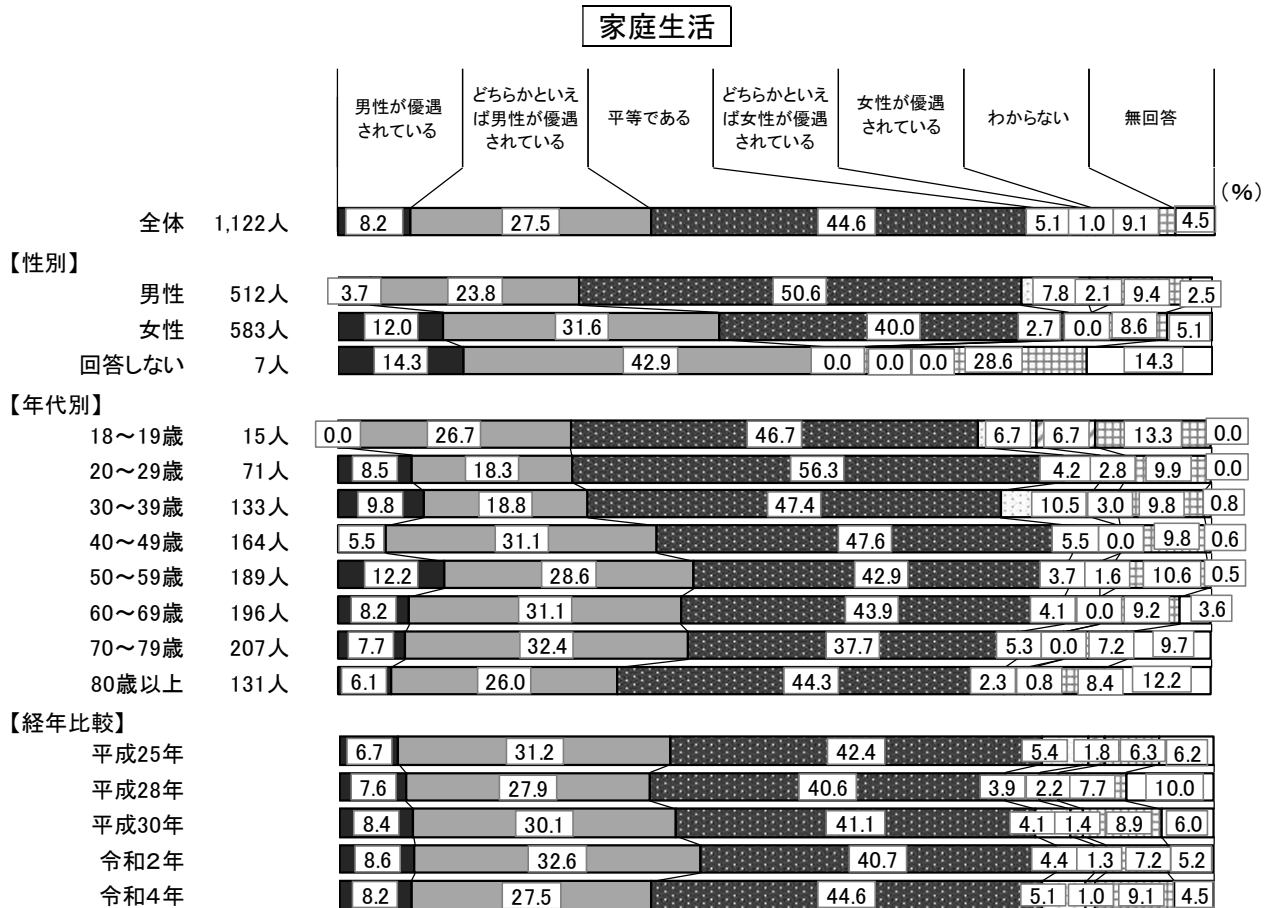
〈学校教育の場〉は「平等である」が 40.8%と“男性優遇と感じている”（14.2%）を大きく上回っています。

性別でみると“男性優遇と感じている”は、全ての項目で女性が男性を上回り、「平等である」でも女性が男性に比べて低くなっています。「平等である」に注目すると〈法律や制度の上で〉では 17.3 ポイントの差があります。

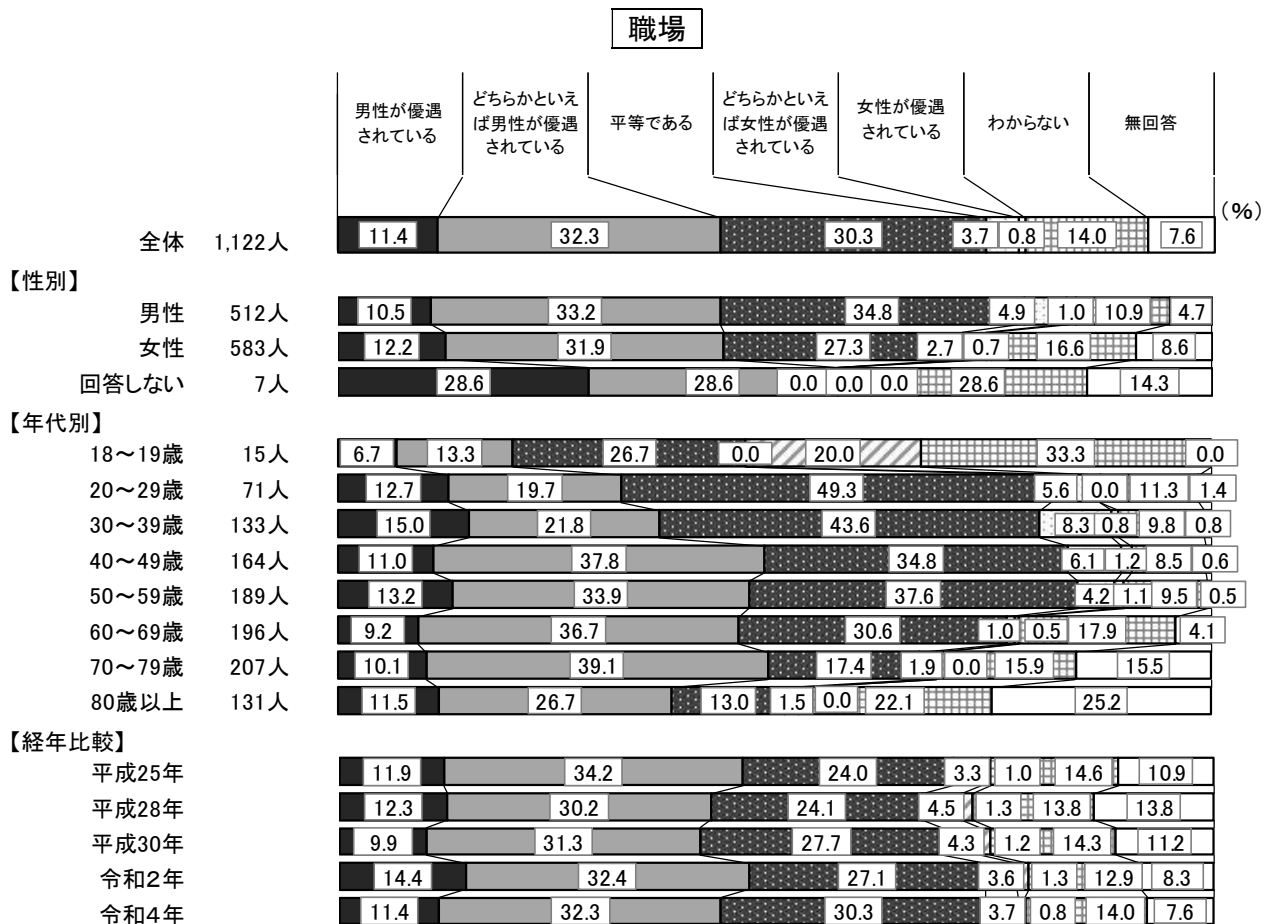
年代別でみると“男性優遇と感じている”は〈家庭生活〉で 50～59 歳、〈職場〉〈学校教育の場〉で 70～79 歳、〈政治の場〉〈法律や制度の上で〉〈社会通念・慣習・しきたりなど〉〈社会全体〉で 60～69 歳が最も高い割合を示しています。

令和 2 年度調査と比較すると「平等である」は、〈家庭生活〉〈職場〉の分野では増加していますが、他の分野では減少しています。

家庭生活 ◆「平等である」44.6%◆

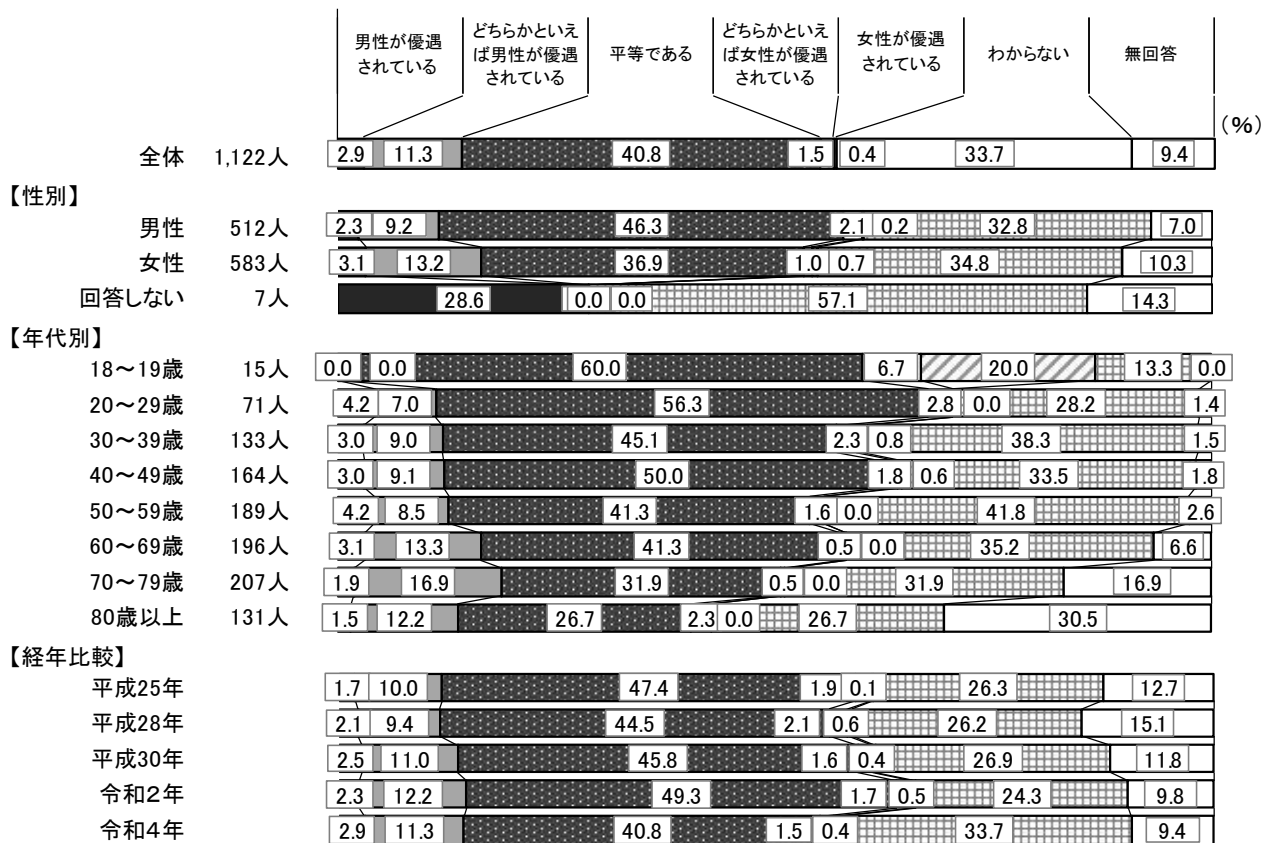


職場 ◆「平等である」30.3%◆



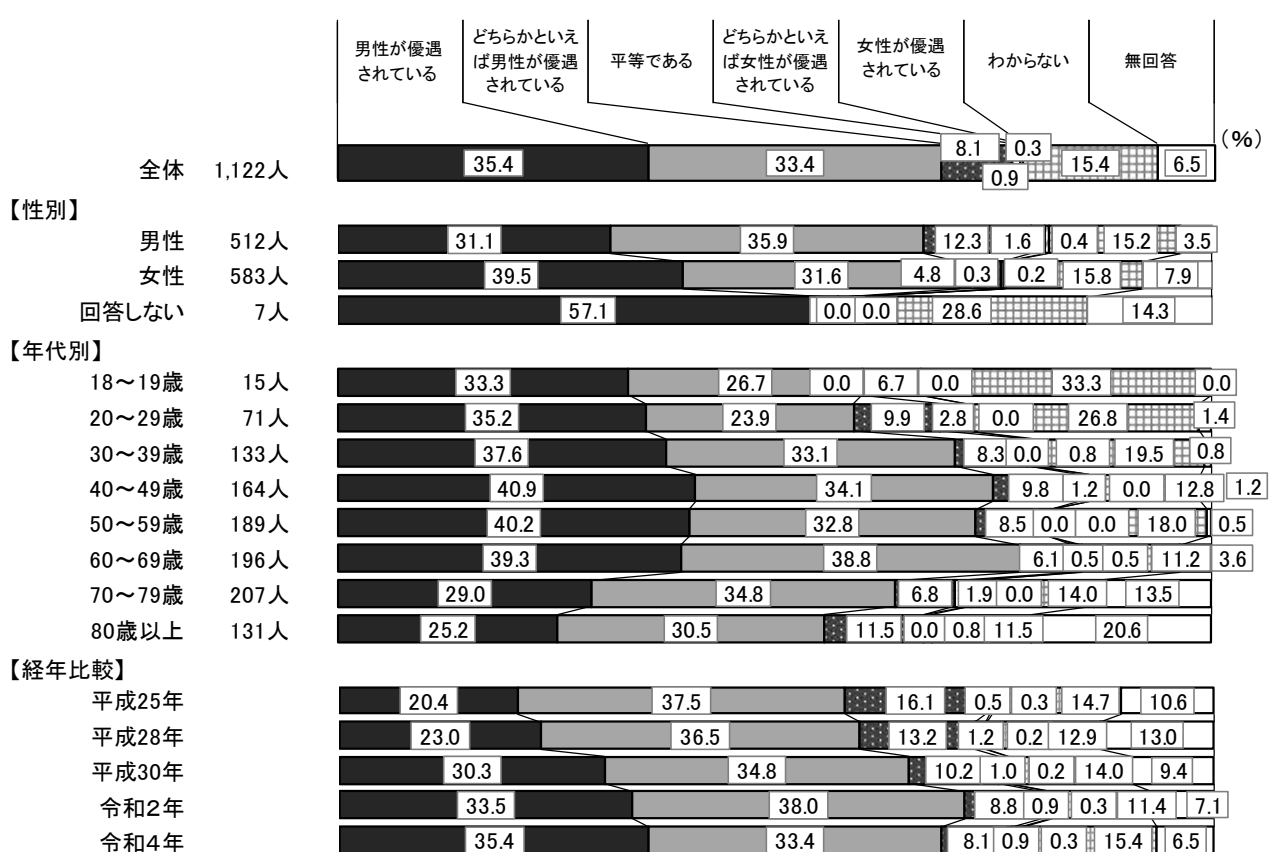
学校教育の場 ◆「平等である」40.8%◆

学校教育の場



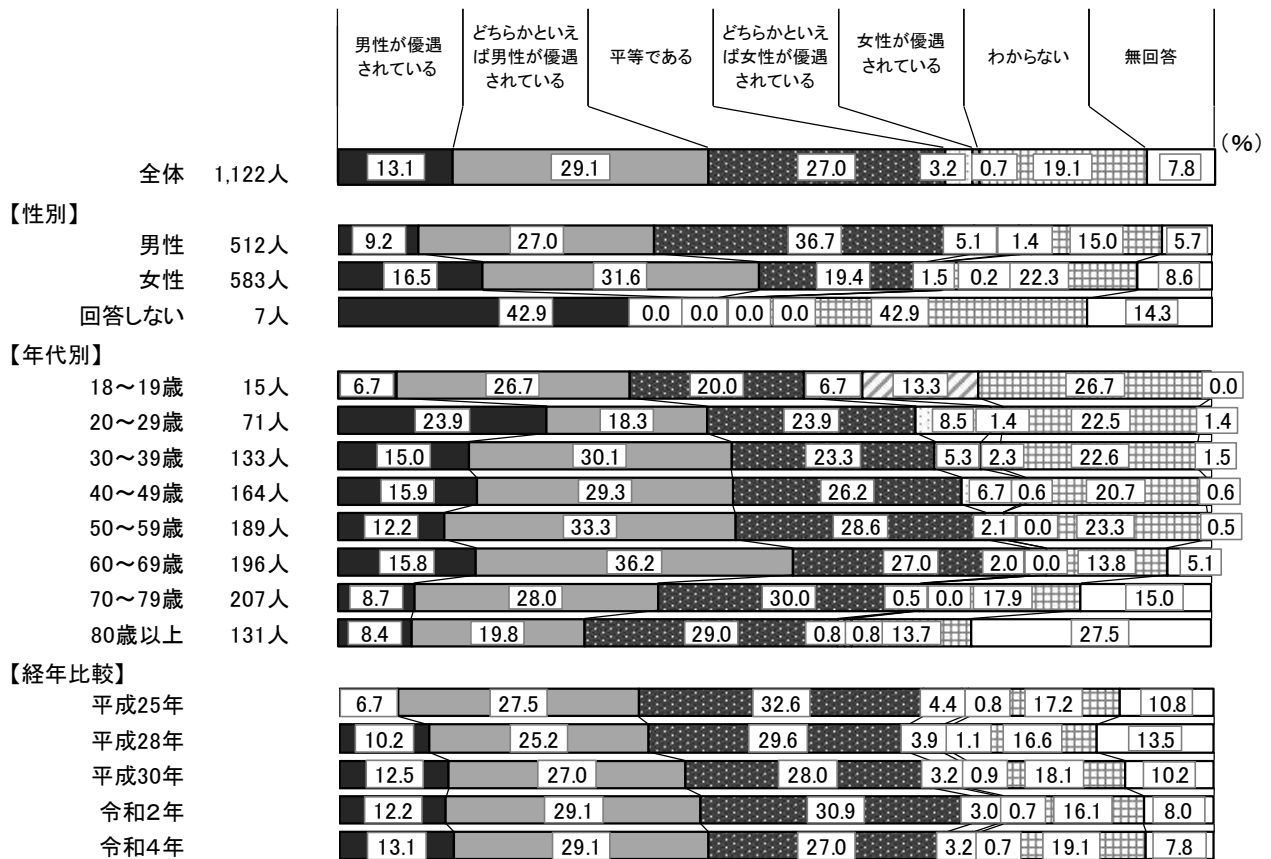
政治の場 ◆「平等である」8.1%◆

政治の場



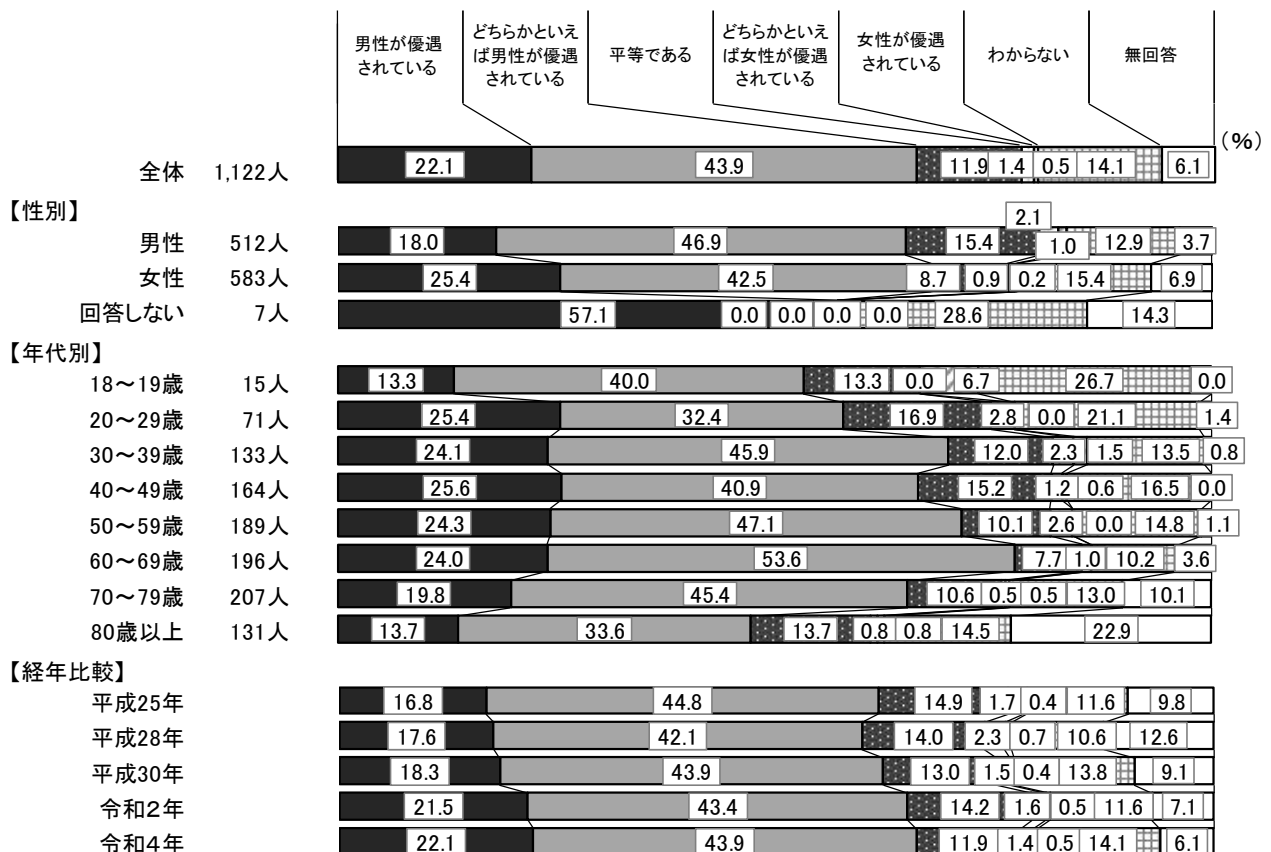
法律や制度の上で ◆「平等である」27.0%◆

法律や制度の上で



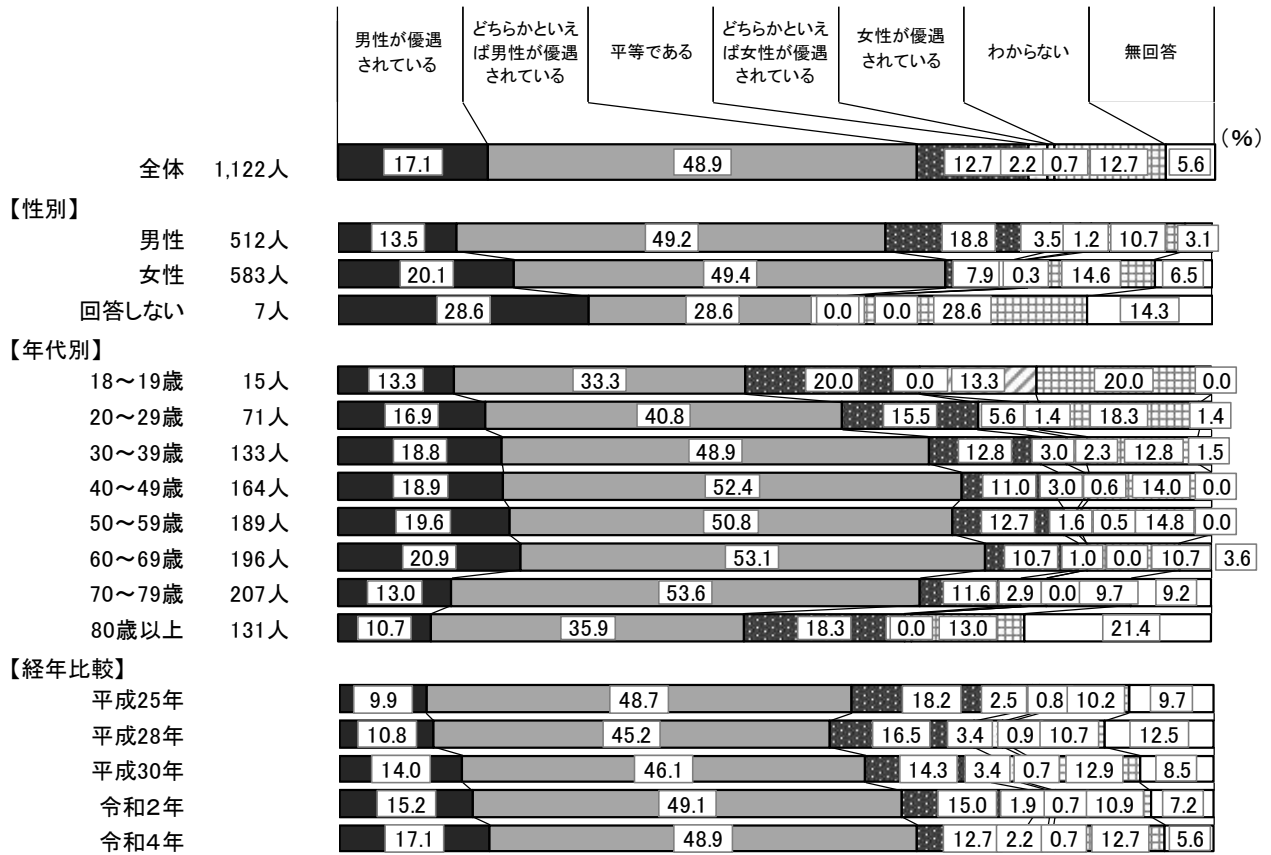
社会通念・慣習・しきたりなど ◆「平等である」11.9%◆

社会通念・慣習・しきたりなど



社会全体 ◆「平等である」12.7%◆

社会全体

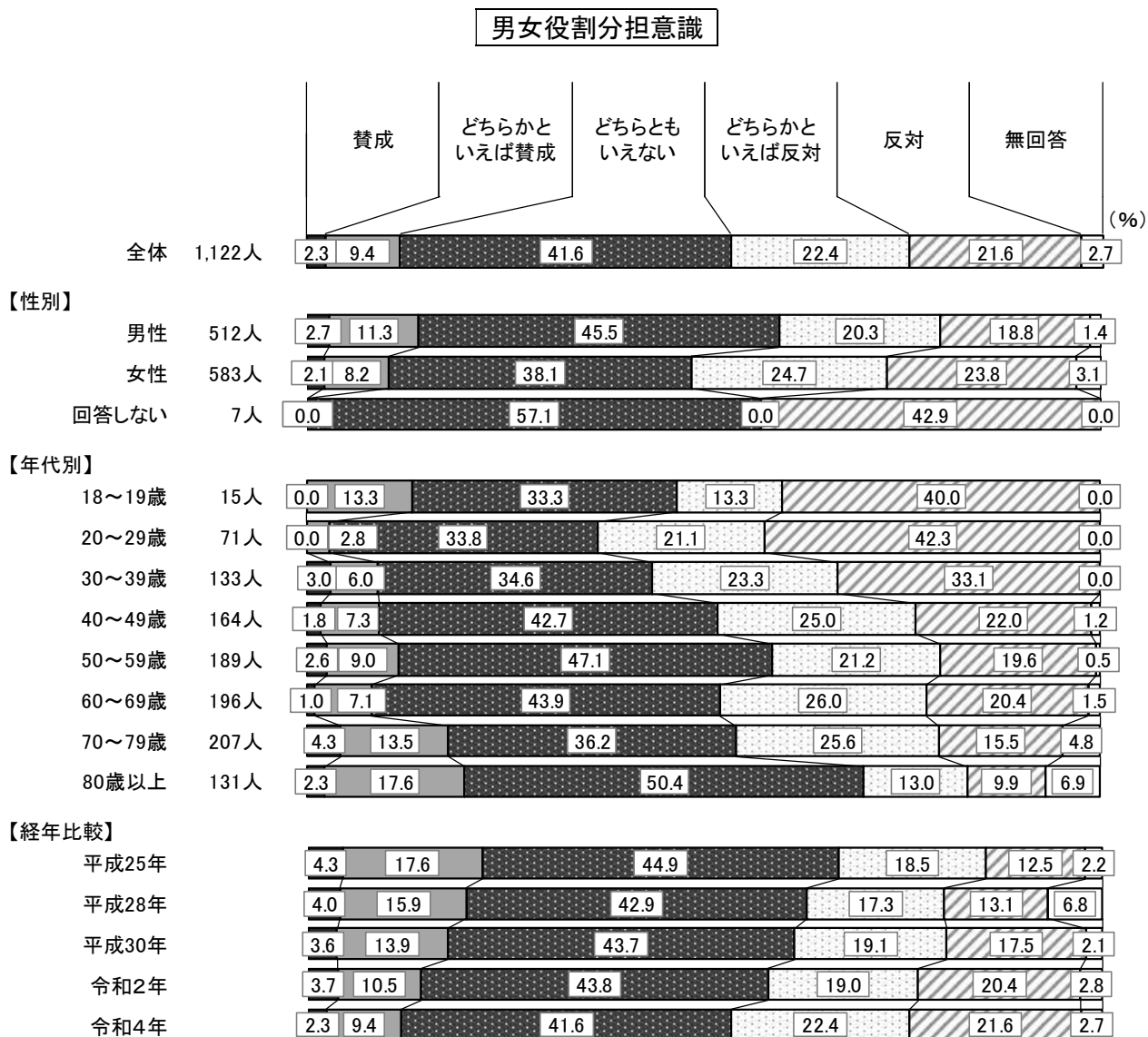




### 8-3 男女役割分担意識

◆ “賛成である” 11.7%、“反対である” 44.0%◆

問 23. あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どのように思いますか。1つ選び、番号を○で囲んでください。



全体では「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた“賛成である”の割合が11.7%、「どちらともいえない」の割合が41.6%、「どちらかといえば反対」と「反対」をあわせた“反対である”の割合が44.0%となっています。

性別で見ると、男性・女性ともに“反対である”が“賛成である”を上回っていますが、男性ではその差が25.1ポイントであるのに対して、女性ではその差が38.2ポイントと大きな開きがあります。

年代別で見ると、全ての年代で“反対である”が“賛成である”を上回っていますが、80歳以上ではその差が3.0ポイントと最も小さくなっています。

平成25年度調査以降、“賛成である”は減少、“反対である”は増加傾向にあります。